李小龍 **1973年**（2006年復刻）

上官小寶/画

麻薬販売の黒幕を倒したことで敵対勢力から追われる李小龍。敵の遺産を継いだカンフーボーイ・金小邪と、その師匠の長老・陰陽魔叟。のみならず、彼は強大な敵を迎えることとなった。地下社会での絶大なる権力と、すさまじい武術の腕を誇るゴッドファーザー「香港教父」！

★鑑賞ひとくちメモ★

上官小寶の代表作。タイトルはブルース・リーの漢字名だが実人物像とも映画ともほぼ関係ない。すさまじい銀幕人気を誇った1971年、名前を勝手に拝借しただけの漫画が雨後の筍のごとく現れたという。ほとんどが10話も続かぬうちに消えたが、その中で生き残ったばかりか38年も続いてしまったのがこれ。パチ漫画も継続すれば立派なオリジナルである。

全1560話という長期連載の中で、初期・第30話前後の「香港教父篇」を中心にワイド単行本サイズ約20巻で復刻したのがこちら。長〜い歴史の中でなぜそこだけ復刻！？作者も評論筋も認める「最も面白かった時代」がそこなのだという（2014　黎明海/著「功夫港漫　口述歴史」より）。

1色刷り　B6サイズ
復刻版元：鄺氏漫画出版公司

映画「ゴッドファーザー」にインスパイアされ、抗いがたい地元のドンとそのファミリー、巨大権力への果敢な戦いと複雑な恩讐、といった構造を取り入れたところ「お話に厚みが出て面白くなった！」と大受けしたという。

そんな「李小龍」だが90年代以降は制作環境を大陸に移してクオリティが下がったり、弟子筋に主筆を任せたものの誰も長続きしなかったりと悲しい末路をたどった。2009年の最終話は「晩節を汚すとはまさにこのことだ！」（喬靖夫＝「武道狂之詩」原作者）と、同業筋にさえケチョンケチョンにこきおろされている。

李小龍新傳

上官小寶/画

1979年（2019年復刻）

李小龍はいとこの伍章東をたよって、田舎の村から大都会・香港へやってきた。駅でさっそくチンピラに絡まれる小龍は、すんでのところで章東の鮮やかな武術に救われる。章東の中国武館に招かれた小龍は衝撃の告白をする。俺は、故郷で人を殺してきたのだと･･･。

★鑑賞ひとくちメモ★

これはよくわからない…「李小龍」は1979年当時も連載続行中。しかもB5タテ版だった（2017年「PLAY!香港コミック巡回展」で実物展示有）。ヨコ版型のこれはなんだろう？内容から察するに「外伝」「プレ・ストーリー」であり、タイトルの「新傳」で「メイン連載ではない」と言明しているのだろうか？香港漫画によくある、長期連載作の1キャラをフィーチャーして作るスピンオフなのだろうか？それにしちゃ登場しているのは主役・李小龍だし。「ドラえもん」と「ドラベース」みたいな関係か？（いや違うだろ…）ただこのヨコ版型の「新傳」、絵はなかなか繊細だし、内容も濃くて充実感がある。本編との関係性は謎のままだが、買って損はない。

オールカラー　B5ヨコ版型
復刻版元：小威出版社

みほん